



専門家から学ぶ、地域や小田原を学ぶ

校長室の窓を開けていると、野鳥のきれいな鳴き声がたくさん聞こえてきます。日中は日差しが強いため、熱中症計とのにらめっこが続いています。梅雨空はどこへ行ってしまったのかと思いますが、子どもたちは元気いっぱい学校生活を楽しんでいきます。

早川小学校では、その道の専門家から学ぶ機会や地域や小田原のことを学ぶ授業を位置付けています。今回はそれら活動の様子をご紹介します。

1年生は、音楽で鍵盤ハーモニカを使って演奏します。学習のスタートにあたり、大村楽器さんを講師にお招きして講習会を実施しました。



また、1年生は生活科の学習で、山根公園や河原公園に探検に出かけました。遊具で遊んだり、虫を探したりと楽しく活動しました。みんなが使う公園での過ごし方やきまりについても勉強しました。

2年生は、生活科の学習でまち探検にでかけました。山安さんやあさみどりさん、土岩かまぼこさん、露木木工所さんなどの地域のお店や魚籃観音や郵便局、漁港、駐在所、早川駅などにも足を延ばし、地域の様子を実際に見て、地域の人から話を聞いて学びました。



3年生は、音楽の学習でリコーダーを使い始めます。そのはじめの一歩として、1年生と同じく大村楽器さんを講師に迎えてリコーダー講習会を実施しました。リコーダーの置き方や扱い方、音の出し方など丁寧に教えていただきました。子どもたちはいつも以上に話をじっくりと聞いていました。きれいな音色で演奏できるようになるのが楽しみです。



4年生は、県下水道公社の方から、生活で使った水をどのようにきれいになっているのかを教えてくださいました。下水道施設の説明や汚れを食べてくれる微生物を見せてもらいました。



ティッシュペーパーが水に溶けない様子から、なぜトイレに流してはいけないのかを理解できたようです。

また、環境事業センターの見学では、自分たちが生活する中で出したごみがどのように処理されるのを見てきました。ごみを分別する理由など、実際に見てくことで納得できたようです。働く人の苦労や大変さを知ることで、「ごみを減らしていきたい」「きまりを守ってごみを捨てたい」などの感想を持つ子がいました。教科書からは伝わらない音やにおいなども感じる事ができたようです。



5年生は、社会科の学習の一環で森林について学びます。小田原市農政課の「わたしたちの木づかい事業」の一環で森を守るための取り組みや森の大切さを教えてくださいました。小田原市では間伐や植樹などを積極的に行っているため、全国と比べ人工林の割合が高いそうです。



2回目の学習では、実際に森に入り、間伐の様子を見学しました。チェーンソーを使って木が倒れる迫力は

実体験ならではのものでした。森の先生から、いろいろな木のことも教えていただきました。学習を通して、「積極的に地域の木を使うことは、森を守るにつながる」ということを学びました。



3回目の学習では、小田原の間伐材を使って箸づくりを行いました。かなを使って丁寧に木を削りました。完成が楽しみです。



6年生は、小田原税務署の方を講師に迎え租税教室を行いました。税金の仕組みやどのようなことに使われているのかを分かりやすく教えていただきました。



はじめ「税金は高いな」と言っていた子どもも「そうだったんだ」と納得することができていました。

また、小田原市の小学6年生が共通して取り組む小田原ちょうちんづくりを行いました。小田原ちょうちん製作ボランティア会の方々にお手伝いいただきました。あらかじめ絵や文字をデザインした和紙を輪にした竹ひごに貼っていきまし。治具を使って少しずつ丁寧に仕上げていきました。完成したちょうちんは三の丸広場に展示されます。



児童代表委員会

6月13日(金)、3年生以上の代表児童と各委員会代表者が集まり、学校全体にかかる課題を話し合う児童代表委員会がありました。議題は「学年関係なく仲を深めるためにふれあい清掃をしよう、全校鬼ごっこをしよう」でした。どの学年も提案理由をしっかりと意識して話し合ってきた意見を発表していました。単に賛成、反対ではなく理

由をしっかりと伝えていました。終了後は、児童会事務局の児童が代表委員会を振り返っていました。担当職員は、子どもたちの頑張りを認めていました。今日の話合いをスタートに「学年関係なく誰にでもやさしくして、あいさつができる早川小」に向けた取り組みになることを期待しています。



城南中学校区での取り組み

6月16日(月)、城南中学校区の小中学校と保育園が合同で、引き取り訓練を実施しました。震度5弱の地震が起き、津波の危険がないと判断されたという設定です。小田原市では、震度5弱以上の地震があった際には、引き取りを実施します。メールでの連絡は基本行いません。ただし、引き取りは津波の危険がないと判断されてから行います。いつ本当の地震が起こるかは誰にもわかりません。そのときに慌てないように、情報収集の手段や誰が引き取りに行くのかなど、確認の機会になったことと思います。なお、お子さんは事前に提出していただいた名簿に記載された人にしか引き渡すことができませんので、ご承知おきください。

6月30日(月)、城南中学校、大窪小学校、早川保育園の先生方に授業や子どもたちの様子を見ていただきました。これは、城南中学校区一体教育研究会と呼ばれ毎年持ち回りで実施しています。授業参観の後は、分科会(児童・生徒指導、学習指導、保健安全指導、特別支援教育など)に分かれて、各校、園の様子や取り組みについての情報交換を行いました。城南中学校区の学校で連携して子どもたちを育てていくために顔の見える関係を築いていくよい機会となりました。

やさしい気遣い

先日、かみそり負けをしまい顔にばんそうこうを貼って朝のあいさつに立っていると、「校長先生大丈夫ですか？」と声をかけてくれる子がたくさんいました。早川小学校の子は本当にやさしいなと思いました。子どもたちの言葉は傷薬よりもずっと効果があるようです。ほのぼのとした気持ちになれる一コマでした。